

# 未来に希望が持てる職場をめざして!! —— 2019年度執行部が発足しました ——

**執行委員長 三澤 純 (人文社会科学研究部・文学系)**

法人化1年目の2004年度に執行委員長を勤めましたので、今回は15年振り、2度目の委員長就任になります。この15年間、「選択と集中」をスローガンとした「大学構造改革」が進められた結果、国立大学運営費交付金は11.3%削減され、教員定数の25%削減が現在進行中です。その結果、日本の科学研究は質・量ともに競争力を急激に落とすと評価されています。加えて、研究費当たりの論文生産数は、予算が重点配分されたはずのトップ大学ほど低いことも明らかとなり、「大学構造改革」が根本的に誤っていたことが明白となりました。こうした事実を特集記事としてまとめた『週刊東洋経済』2018年2月10日号の表紙には、「科学立国の劣化」「地方国立大学の悲惨な内情」というセンセーショナルな文言が配され、ど真ん中には「大学が壊れる」という大見出しが打たれています。

しかし現在も「大学構造改革」の流れは改められず、ますます矛盾を深めています。2019年度政府予算では、政府の評価基準で傾斜配分する割合が、現在の3%から10%に引き上げられました。しかもこの制度導入を主導した財務省は、傾斜配分の対象をさらに拡大し、将来的には交付金全体を傾斜配分にしようとする意図を隠していません。また今年5月10日に成立した大学等就学支援法も、そうした矛盾の象徴となっています。この法律は、「学費を値下げしてほしい」という学生や保護者の切実な要求に完全に背を向け、全学生の1割程度とされる住民税非課税世帯のみを授業料減免対象者としています。政府は、この法律をしばしば「高等教育無償化法」と呼んでいますが、その財源は消費税増税分なので、交付金を減額された大学が学費値上げに走れば、9割の学生たちは二重三重の負担増に苦しむことになるのです。「看板に偽りあり」とは、まさにこのことです。

今年度の組合活動を展望すれば、現在、使用者側が導入を目論んでいる新年俸制及び業績評価制への対応が、最大の任務になると予想されます。大学、特に熊本大学のような地方国立大学の危機が叫ばれる中、私たちが、私たち自らの労働・生活環境を守るために労働組合運動を進めようとする時、組織拡大が最重要事項であることは火を見るよりも明らかです。

この15年間、私たちの組合の仲間の数は、全体数はそれほど変わらないものの、医学部支部とそれ以外の支部との格差が大きく広がってしまいました。医学部支部は今春も拡大に成功しておられ、本当に頭が下がる思いで一杯ですが、その分を他の支部が足を引っ張ってしまっています。組合員一人ひとりのご協力で、各支部で仲間を増やすことができるように、私も努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

**赤煉瓦**

熊本大学教職員組合

No. 1

2019. 6. 20

内線:3529 FAX:346-1247  
ku-kyoso@union.kumamoto-u.ac.jp  
http://union.kumamoto-u.ac.jp/

**書記長 岡本 洋一 (人文社会科学研究部・法学系)**

本年度から書記長を務めることになりました。組合員の皆さま、熊大教職員の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。わたしは、5年前に本学に着任し、組合活動に参加し、昨年まで2年間書記局次長を務めてきました。前任の平野書記長が果たせなかったことを受け継ぎ、三澤執行委員長を補佐しつつ、熊本大学教職員組合のそもそもの目的である「組合員の労働条件の維持改善その他経済的、社会的、文化的地位の向上」と「民主的な労働環境の建設」(組合規則第3条)のため力を尽くしたいと思います。

委員長のご挨拶にもありますとおり、日本の大学を取り巻く環境の変化は大きく変わり、年々と厳しさを増しております。もはや、大学が研究・教育機関と呼ぶべきかいつまで続くのかという危機的な状況にあると言っても決して言い過ぎと言えない状況にあると思っております。

とはいえ、そのような危機的な状況にあるにもかかわらず、あるいは、そうであるからこそなのか、執行委員長のご指摘のとおり、とくに黒髪事業場では組合員減少に歯止めはかからず、とくに(研究者)教育教員における組合員は、もはや「絶滅危惧種」と言ってもよい状態と思っております。

さて、以上のような極めて厳しい状況で、熊大教職員組合の書記長として、熊本大学のより良い労働環境改善のためにどのようなことができるのか? なかなか厳しい状況ですが、組合員をふくめた熊大教職員の皆さまのご協力、ご支援などを得て、今日よりも明日、未来に希望が持てるような職場にできるよう一歩ずつ工夫を積み重ねていきたいと思っております。たとえば、労働者の権利である年休取得率の向上のためという労働環境改善のためには、雇用者側と協力すべきことは協力し、しかし、労働環境のこれ以上の悪化には断固として反対し、明確な説明を求めるといった是々非々の姿勢を取りたいと思っております。

組合員をふくめた教職員の皆さまのご支援、ご協力をお願いしたいと思います。

**書記 柴田 郁 (医学部支部事務所勤務)**

4月より医学部支部の専従書記として採用していただきました。

組合員の皆様より良い労働環境作りのサポートができればと思っております。

皆様のご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします。

## 書記局員を募集します

今年度も組合規約第23条3項を基に、書記長業務を応援・お手伝いする書記局を設置します。ご協力いただける方は、6月28(金)までに組合事務所にご連絡ください。

よろしくお願いいたします。

(裏面につづく)

## 2019 年度執行役員名簿

支部名	役職名	氏名	担当部会（専門、職種別） <u>下線は部会長</u>
文・法学部	執行委員長	三澤 純	賃金 <u>組織・財政</u> 事務職員 現業職員 有期雇用職員
医学部	副執行委員長	石原 光浩	賃金 <u>組織・財政</u> 事務職員 <u>現業職員</u> 有期雇用職員 医療技術職員
文・法学部	書記長	岡本 洋一	<u>賃金</u> <u>組織・財政</u> <u>事務職員</u> 現業職員 <u>有期雇用職員</u>
工学部	書記次長	清水 久雄	賃金 <u>組織・財政</u> 事務職員 <u>技術職員</u> 現業職員 有期雇用職員 県国公共関
文・法学部	執行委員	小林 晃	賃金 <u>教員</u>
文・法学部	執行委員	坂元 昌樹	<u>組織・財政</u> 教員
教育学部	執行委員	長嶺 寿宣	賃金 教員
教育学部	執行委員	古田 弘子	女性 教員
工学部	執行委員	田中 茂	青年 技術職員
医学部	執行委員	武吉 雅貴	青年 医療技術職員
医学部	執行委員	中村 直子	<u>女性</u> 技術職員
医学部	執行委員	中村 嘉宏	教育・文化・レク <u>看護師</u>
医学部	執行委員	松原 隆敏	<u>教育・文化・レク</u> <u>医療技術職員</u>
理学部	執行委員	可児 智美	女性 教員
理学部	執行委員	田中 明	賃金 有期雇用職員
医学部	監査委員	大塚 勝二	
理学部	監査委員	渋谷 秀敏	
文・法学部	監査委員	平野 順也	